

令和6年度 静岡大学人文社会科学部
社会人選抜（第1期）試験問題

経済学科 [小論文] (SK)

令和5年11月25日(土)
10時00分～11時30分

注意事項

1. 解答始めの合図があるまで、この冊子を開いてはいけません。
2. 解答始めの合図の後、下段に記載の枚数のとおり問題用紙・解答用紙・下書用紙があるか確認してください。
3. 解答を始める前に、解答用紙の所定欄に受験番号を記入してください。解答用紙に氏名を記入してはいけません。
4. 試験終了後も監督者が許可するまで退室しないでください。
5. 問題用紙及び下書用紙は持ち帰ってください。解答用紙は持ち帰ってはいけません。

問題用紙（この表紙を除く）・・・6枚
解答用紙・・・2枚
下書用紙・・・2枚

『答案作成の注意事項』

1. 書き出しは、一マスあけない。
2. 改行したら、一マスあける。
3. 読点には「、」を使用し、句点には「。」を使用し、それぞれ一マスとする。ただし、行の末尾については文字と同じマスに含める。
4. 小さな「っ」「ゃ」「ゅ」「ょ」は一マスで使う。
5. 数字と英字の書き方は、下の例に従い、二文字で一マスを使う。
数字例：123であれば、「12」と「3」で二マス使用。
英字例：abcであれば、「ab」と「c」で二マス使用。

次の文章は、吉見俊哉著『平成時代』（岩波書店，2019年）の一部である。この文章を読み、問1～問2に答えなさい。

著作権の関係上、公表しません。

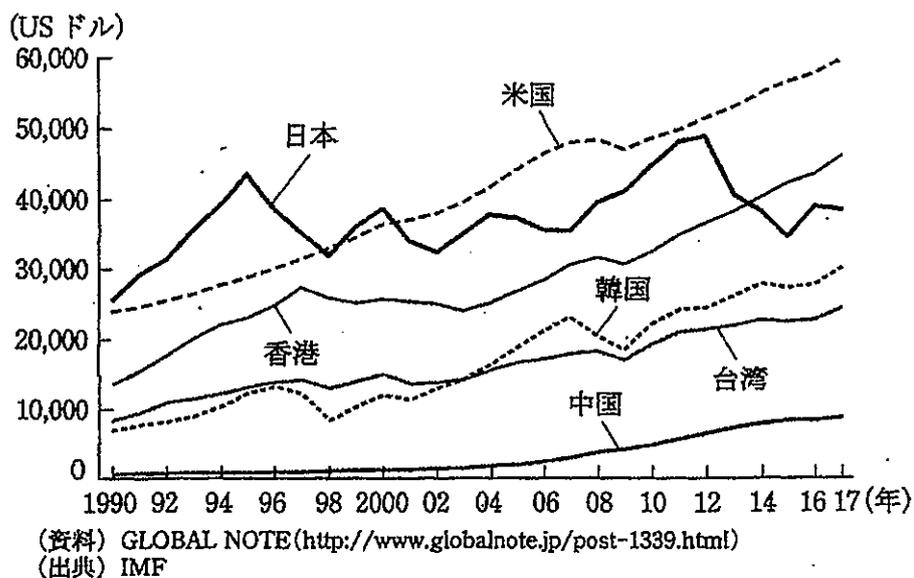
著作権の関係上、公表しません。

著作権の関係上、公表しません。

著作権の関係上、公表しません。

(出典) 吉見俊哉著『平成時代』(岩波書店, 2019年, 30~53頁)。ただし, 本文は縦書きを横書きとし, 原文にあった小見出し等を省いた。また, 一部の漢数字を算用数字に置き換えた。

図表1 主要諸国における1人当たり名目GDPの推移(IMF統計)



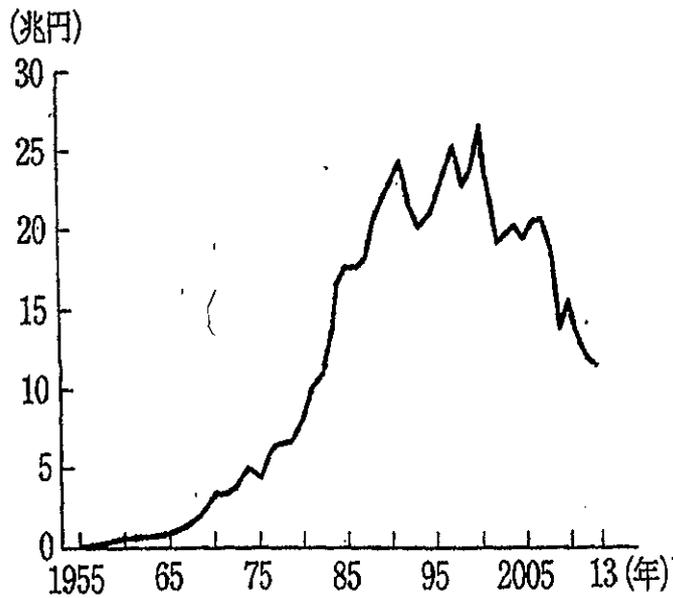
図表2 半導体メーカーの売上高ランキング

(1990年と2012年比較)

	1990年	2012年
1	NEC	Intel
2	東芝	Samsung
3	日立	Qualcomm
4	Motorola	TI
5	Intel	東芝
6	富士通	ルネサス
7	TI	SKHynix
8	三菱	STMicro
9	Philips	Broadcom
10	松下	Micron

(出所) 湯之上隆「日本型モノづくりの敗北」文春新書, 2013年

図表3 日本における電子産業の生産高の推移



(資料) 経済産業省機械統計
(出所) 西村吉雄『電子立国は、なぜ凋落したか』日経BP社、
2014年より作成

問1 平成の30年間に於ける日本の電機産業の状況とそれに至った要因について、本文に則して400字以内で説明しなさい。(配点40%)

問2 今後、日本が世界経済に於けるその存在感を高めるためにはどうすれば良いか、あなたの意見を500字以内で述べなさい。(配点60%)

採点・評価基準 (具体的基準)

教科・科目名	小論文
実施学部・学科等	人文社会科学部 経済学科 (夜間主コース)
出題のねらい	<p>① 著者の主張を的確に読み取っているか。</p> <p>② 問いに対して本文中の適切な個所を要領よくまとめられるか。</p> <p>③ 自分の考え方を論理的に述べることができるか。</p>
採点基準	<p>問1について</p> <p>(1) 本文を通じて著者の主張を的確に理解しているか</p> <p>(2) 著者の趣旨を適切にまとめているか。</p> <p>問2について</p> <p>(1) 問いの意図を正しく理解できて、自分の主張を明確に述べているか</p> <p>(2) 自分の主張に対する根拠を論理的に、客観的に書いているか</p> <p>(3) 発想・着想に独自性があり、適切な表現を用いて文章がまとめられているか。</p> <p>配点</p> <p>問1 40%</p> <p>問2 60%</p>